



2月8日に記者発表された当初予算

市議会2月定例会において、令和元年度当初予算が成立しました。今年度の当初予算に計上した主要事業や歳入・歳出の内訳などを紹介します。

令和元年度 当初予算

多くの大事業を確実に推進

財政課 ☎36・7123

市長施政方針

第2次島田市総合計画に沿った市政運営は2年目を迎えました。将来像を「笑顔あふれる安心のまち 島田」とし、「このまちに暮らす人の幸福度の向上」と、根底に流れる縮充の考えを市政運営の柱としています。

人口減少・超高齢社会を受け入れつつ、将来に夢や希望が持てる魅力あふれる島田市を後世に引き継いでいくため、新たな時代を切り拓く「7つの挑戦」に挑みます。

新たな時代を切り拓く

7つの挑戦

1 シビックプライドの醸成

島田での暮らしに喜びや幸せを感じることが、このまちへの誇りと「島田愛」につながります。地域コミュニティの活性化を後押しするとともに、「島田市緑茶化計画」のさらなる深化に努めます。

2 デジタルマーケティング手法の積極的な活用

コンピュータ上に日々蓄積するデータを有効活用することで、効果的なシタイプロモーションへつなげます。デジタルマーケティング手法を、全国の基礎自治体に先駆けて導入していきます。

3 コンパクトプラスネットワークのまちづくり

居住や、商業・福祉などの生活サービス機能を地域拠点に集約するとともに、複数の拠点間を公共交通やICTの活用などにより結びつけ

ることで、人口減少社会においても持続可能な都市の形成を目指します。

4 観光によるにぎわいづくり

新東名島田金谷インターチェンジ周辺および旧金谷中学校跡地に今後、新たに誕生する交流拠点に加え、SLや蓬萊橋、川越街道や川根温泉といった多彩な地域資源を活かし、地域全体で稼げる仕組みを構築し、観光で地域経済を牽引していきます。

5 健康による幸せづくり

急速に進行する超高齢社会に対応するために、健康な市民を増やし、健康寿命を延ばしていくことが重要です。今年度から、国民健康保険の被保険者を対象に、特定健診の完全無償化を実施します。また、今年度末に完成する「田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場」を始

め、幅広い年齢層の市民の憩いの場を提供します。

6 子育て施策のさらなる充実

子育て施策は市の大きな強みであり、その成果は子育て世代が中心となる30代の転入が、5年連続で転出を上回っていることにも現れています。保育料の第2子半額・第3子以降無償化や「ママハロ」を継続するとともに、新たに各家庭に担当保健師を付け、気軽に相談しやすい関係を築くことができる「島田市版ネウボラ」に、県内初の取り組みとして挑戦します。

7 教育による未来の人材づくり

外国語指導助手の増員やロボット・ドローンに触れるICT教育を推進します。学校再編方針については、検討委員会からの提言を受け、保護者や地域の皆さんとの協議を進めていきます。

2 教育 *Education*

子育て・教育環境が充実するまちづくり



整備が進む多目的スポーツ・レクリエーション広場 (伊太)

○民間保育所等施設型給付費	19億 2,784万円
○島田第四小学校改築事業	9億 9,900万円
○田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場整備事業	3億 1,400万円
○大津小学校屋内運動場耐震化事業	1億 4,171万円
○教育用コンピュータ整備経費(小中学校)	8,220万円
◎島田市版ネウボラ事業	—

3 地域 *Community*

地域経済を力強くリードするまちづくり



Pepper (ペッパー) プログラミング体験学習

◎プレミアム付商品券事業	4億 8,659万円
○茶生産施設等整備事業	1億 1,217万円
○ICT推進プロジェクト事業	1億 435万円
◎林道橋りょう点検事業	1,612万円
◎中小企業・小規模企業振興推進会議運営事業	801万円
◎観光総合戦略推進事業	799万円
◎遊休不動産リノベーション応援事業	300万円

令和元年度

主要事業

7つのテーマ *Seven Themes*

令和元年度当初予算に計上した主要事業について、島田市総合計画で取り組む7つのテーマに分けて紹介します。

◎は、令和元年度の新規事業です。

1 安全 *Safety*

安全ですこやかに暮らせるまちづくり



建設工事が進む新しい島田市民病院

○消防救急広域事務委託費	12億 940万円
○新病院建設に係る一般会計繰出金	10億 3,909万円
○養護老人ホームぎんもくせい管理運営経費	1億 3,610万円
○建築物耐震改修促進事業	6,978万円
◎成年後見制度支援体制構築事業	480万円
◎家計改善支援事業	454万円
○フッ化物応用等歯科保健普及事業	347万円

6 基盤 *Infrastructure*

ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり



環境型観光・健康施設の整備予定地 (旧金谷中学校跡地)

○賑わい交流拠点整備事業	10億 5,338万円
○ふじのくにフロンティア推進区域整備事業	5億 6,531万円
○簡易水道建設改良事業	5億 1,846万円
○橋りょう長寿命化修繕・耐震事業	2億 1,550万円
○向島町公園整備事業	7,338万円
◎大井川左岸旧堤線改良事業	5,550万円
○空港周辺プロジェクト推進事業	3,127万円

4 環境 *Environment*

住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり



コミュニティバス (JR島田駅北口)

○クリーンセンター長寿命化事業	10億 1,202万円
○ガス化溶融施設管理運営経費	8億 7,997万円
○コミュニティバス運行管理経費	2億 8,518万円
○合併処理浄化槽設置助成事業	1億 1,786万円
○中古住宅活用促進事業	2,483万円
◎森林環境整備促進事業	885万円
◎住宅用省エネルギー利用設備設置促進事業	800万円

7 経営 *Management*

人口減少社会に挑戦する経営改革



現在の島田市役所本庁舎

◎市役所新庁舎整備事業	2億 1,462万円
○自治会活動支援事業	3,458万円
◎旧金谷庁舎跡地利活用事業	2,554万円
◎デジタルマーケティング施策推進事業	1,908万円
○地方公営企業法適用化事業	1,800万円
○協働のまちづくり推進事業	1,085万円
◎第2期総合戦略策定事業	493万円

5 文化 *Culture*

歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり



「島田市緑茶化計画」関連商品の展示 (島田市博物館)

○文化施設管理運営経費	1億 7,768万円
○島田大祭事業費補助金	3,650万円
○移住・定住促進事業	1,376万円
○地域おこし協力隊派遣事業	1,310万円
◎歴史資源利活用事業	1,234万円
○シティプロモーション推進事業	813万円
○文化芸術推進計画策定事業	598万円

425億3,235万

市の会計の構成

島田市の会計は、一般会計と特別会計、そして企業会計で構成されています。

一般会計は、まちづくりや福祉、産業経済、教育など市の全般的な事業を行うための会計です。

特別会計は、保険料など特定の収入で事業を行う会計で、事業の収支を明確にするため、一般会計と経理を区分しています。現在、国民健康保険事業など8つの特別会計を設けています。

企業会計は、事業収入により公共の利益を目的に経営する事業の会計で、現在、水道事業と病院事業に企業会計を設けています。

一般会計当初予算

(歳出)

衛生費は、クリーンセンター長寿命化事業に伴うし尿処理費の増などにより、前年度比14億4,629万円(31.6%)の増額となっています。

また、土木費は、島田金谷インターチェンジ周辺地区開発事業の増などにより、前年度比10億4,137万円(24.3%)の増額となっています。一方、農林業費は、森林施業補助事業の減などにより、前年度比1億9,499万円(8.7%)の減額となっています。

会計別予算額

会計名	予算額	前年度対比
I 一般会計	425億3,235万円	11.3%
II 特別会計	214億3,292万円	△0.6%
国民健康保険事業	91億8,686万円	△5.1%
簡易水道事業	6億5,193万円	66.3%
土地取得事業	7億3,944万円	15.0%
休日急患診療事業	1,744万円	1.5%
公共下水道事業	10億8,887万円	△21.9%
介護保険事業	84億5,116万円	3.7%
介護サービス事業	8,012万円	13.3%
後期高齢者医療事業	12億1,710万円	0.6%
III 企業会計	210億6,393万円	11.8%
水道事業	18億4,339万円	5.2%
病院事業	192億2,054万円	12.4%
合計	850億2,920万円	8.2%

歳出の性質別構成比率

性質	区分	構成比率
消費的経費 61.8%	人件費	13.7%
	物件費	19.2%
	扶助費	19.6%
	補助費等	9.0%
	維持補修費	0.3%
投資的経費 16.8%	普通建設事業費	16.7%
	災害復旧事業費	0.1%
	その他の経費 21.3%	
その他の経費 21.3%	公債費	11.0%
	繰出金	6.7%
	投資及び出資金等	3.6%
予備費 0.1%		0.1%

市民1人当たりの歳出予算はおよそ

43万1,600円

※平成31年3月31日現在の人口9万8,546人で算出。

市債年度末残見込額

区分	残高見込額(単位:万円)		増減率
	H30年度末	R1年度末	
一般会計	386億 5,896	403億 251	4.3%
簡易水道事業	5億 5,455	10億 2,728	85.2%
公共下水道事業	39億 7,547	38億 2,527	△3.8%
水道事業	19億 81	20億 1,546	6.0%
病院事業	41億 4,686	72億 261	73.7%
合計	492億 3,665	543億 7,313	10.4%

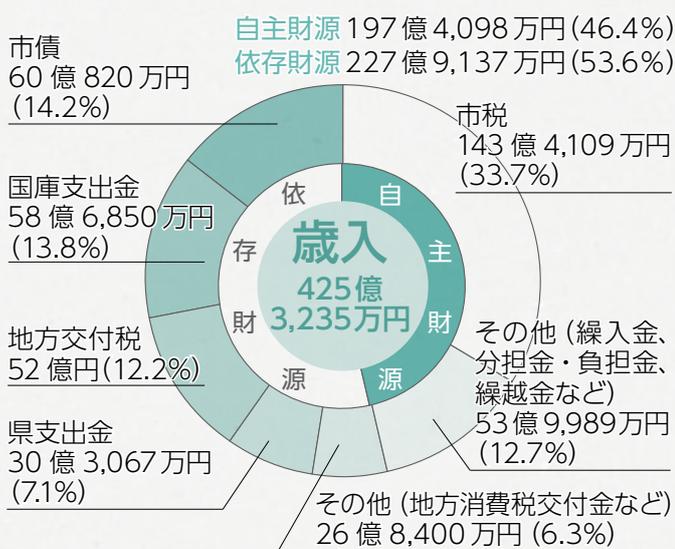
※数値は端数処理で調整。

令和元年度 一般会計当初予算

【歳入】
自主財源では、前年度比で見ると、繰入金が財政調整基金繰入金の増などにより3億8861万円(17.6%)の増額、さらに、諸収入がプレミアム付商品券売払収入の増などにより3億6403万円(38.0%)の増額となりました。一方、分担金および負担金が民間保育所入園者負担金の減などにより8568万円(21.5%)の減額となり、自主財源比率は前年度比3.0ポイント低下しました。

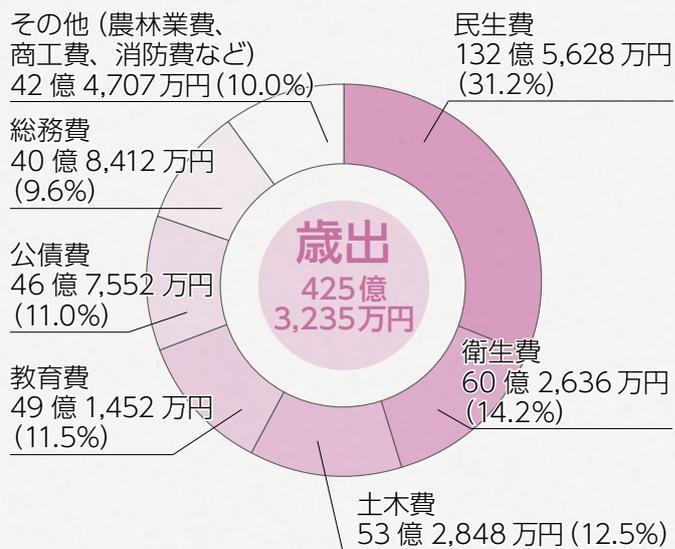
依存財源では、県支出金が静岡空港隣接地域賑わい空間創生事業費補助金等の減により1億9157万円(5.9%)の減額となりました。一方、市債は衛生債、土木債などの借入の増により22億350万円(57.9%)の増額となりました。

歳入の内訳 (構成比：%)



※数値は端数処理で調整。

歳出の内訳 (構成比：%)



※数値は端数処理で調整。

用語の解説

【歳出の部(目的別分類)】

民生費／児童、高齢者、障害者福祉など

公債費／市債の返済金と利子の支払い

教育費／学校教育や社会教育など

衛生費／保健事業やごみ処理など

土木費／道路・河川・公園の整備、市営住宅の管理など

総務費／電算システムや戸籍・住民登録、庁舎の維持管理など

【歳出の部(性質別分類)】
扶助費／生活扶助、医療扶助など
物件費／施設の保守管理および一般事務

普通建設事業費／道路の新設、改良や施設の新増築など

繰入金／一般会計から特別会計、企業会計への負担金や補助金など

【歳入の部】
市税／市民税などに市に納められた税金

繰入金／基金の取り崩しや他会計から入れるお金

分担金・負担金／保育所入園者の負担金など

地方交付税／市町村の実状に合わせ国から交付されるもの

国庫(県)支出金／国(県)からの補助金、負担金など

市債／市が借り入れるお金